

宮崎県総合博物館中期運営ビジョン評価表（平成26年度）

評価欄の数値は4段階評価数値

内部評価 4…達成できた 3…ほぼ達成できた 2…あまり達成できなかった 1…達成できなかった

外部評価 4…期待以上できた 3…ほぼ期待どおり 2…やや期待を下回る 1…改善が必要

(1) 調査研究

項目	内容	評価指標	26年度目標値	26年度実績	内部評価		外部評価	
					評価内容及び改善策	数値	総合	評価・意見
①調査研究・計画	部門調査	調査の進捗状況	-	-	平成26年度は、県南調査の最終年度である。自然史系では県南地域における動植物相調査や日南海岸の地質調査、歴史系については、史料調査や聞き取り調査など、補足調査を中心に取り組み概ね一定の成果を得た。研究団体等と共同で取り組んだものもあり、データや研究結果のまとめ行っていく必要がある。 まとめたデータや研究結果を基に、平成27年度には調査研究報告書を作成し、県南地域における総合調査の研究結果の公開を目指す。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・県南調査の最終年にあたり、補足調査も重ね、相当の成果が得られ、その公開を目指すとのこと。経過の報告等を博物館で開催される研究会や講習会で垣間見たが興味深い。今後の総合的報告を期待する。 ・部門研究や個別研究の成果を紀要に掲載され、さらに研究の成果を館の特別展に活かしておられることは、高く評価される。 ・紀要に掲載された論考のなかに外部機関の助成を得たものがあるが、このような調査研究の方法をこれからも進められることを希望する。今後、県からの予算の拡大が見込めない中、調査研究のレベルを向上させるために、各学芸員が外部資金の獲得にも取り組む必要がある。 ・個別調査の進捗状況の「評価内容および改善策」の文章は、達成度のパーセントは違っているが昨年度および一昨年度とほぼ同文で、拝読しても当該年度の内実が分からず、形骸化しているのが残念である。 ・第2期運営ビジョンにおける「調査研究」では、内容・質が重要になる項目であり、それを担保するに必要な回数があれば良い。年度末の内部評価の際には、調査回数が目標値を越えたかどうかよりも、調査研究の内容・質を吟味されることを希望する。 ・評価全般について：「評価の基準表」に従って、評価数値が決められた根拠を具体的に記述するべきではないか。例えば、「部門調査・調査の進捗状況」は3なので、十分でないという評価された部門があったことになる。「改善策」として、当該部門の目標達成に必要な方策が必要になると思われる。また26年度の業績評価なので、単に27年度の計画や予定を書くのはふさわしくない。期間の区切り等によって来年度以降に実施予定である場合は、今年度は評価対象にならない旨を簡潔に書いていただきたい。 	
		報告書の発刊・展示会の実施(各期1回)	各期1回	-	県南地域の部門調査は、平成23年度から平成26年度までの4年間の計画で取り組んできた。 平成27年度は、報告書の発行を予定している。また、研究成果の公開のため、展示会の実施も計画している。	-		
	個別調査	調査の進捗状況	-	-	各学芸員が研究テーマを設定し調査研究を行った。研究テーマの中には2～5年の複数年計画のもの、または県南調査の内容を兼ねるものもあるが、平成26年度の個別の達成度（自己評価）を総合すると、約70%達成できた。自然史系では動植物相調査や地質調査を、歴史系では史料調査や聞き取り調査などを行ったが、天候、館内業務の都合等により日程変更を要することがあった。26年度の調査研究の成果は、調査研究報告会で各学芸員が発表するとともに、研究紀要に調査研究の成果を掲載した。 平成27年度も調査計画を立て、計画的に調査を実施していくよう努める。	3		
		研究紀要の発刊	年1回	1回	平成27年3月に研究紀要第35輯を発行した。内容は論文数11、全116ページであり、研究団体等と共同で取り組んだ4本を含む。 平成27年度も引き続き、年度末の発行に向けて内容の充実を目標に取り組む。	4		
②外部の研究団体等との連携	-	-	-	-	部門調査や個別研究は、国立科学博物館、国立歴史民俗博物館、産業技術総合研究所をはじめ各地の博物館や大学など県外の研究機関・研究者と連携しながら行っている。共同調査の依頼もあり、その結果、新種発表等の成果もあり充実している。 また、当館では難しい同定や鑑定においても外部の研究者や研究団体の協力をもらっている。県内では各大学をはじめ、県工業技術センター等と連携して調査や分析を実施した。県内の研究団体とは調査研究発表会、展示会への協力、採集作品の名前を調べる会などで協力をもらうなどして連携を図っている。 このような活動は情報の収集や資料の収集にもつながっており、引き続き緊密な連携・協力関係を維持していく。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・個別調査：以前にも指摘があったと思うが、天候、館内業務等については、ある程度予測されることなので、目標を立てる際に考慮すべきではないか。100%の達成を目指すのであれば、具体的な方策が求められる。 ・紀要は、大変充実した内容になっていると思われる。外部研究団体との連携も活発に行われ、十分な成果を上げていると評価できる。 	

宮崎県総合博物館中期運営ビジョン評価表（平成26年度）

評価欄の数値は4段階評価数値

(2) 収集・保存

項目	内容	評価指標	26年度目標値	26年度実績	内部評価		外部評価		
					評価内容及び改善策	数値	総合	評価・意見	総合
①収集	資料	2,500点 (年平均 500点)	年500点	587点	収集は、購入・寄贈・委託製作・採集・撮影などの方法で行っている。資料の収集に関しては、寄贈及び調査研究による採集での実績が多かった。寄贈は、地質部門が112点、歴史部門が1点、民俗部門が35点であった。動物部門及び植物部門については寄贈資料の収集はなかった。採集については、植物部門が409点、地質部門が30点であった。県南調査を始め、講座の下見や現地調査を通して積極的に採取したものである。 図書・文献の収集に関しては、他の博物館から送付される研究紀要や年報を始め、県内外の大学や研究施設、研究会や同好会からの研究報告書等が数多く収集された。 デジタル画像の収集については、調査研究や各事業での撮影によるものがほとんどである。平成26年度は資料や図書・文献に関して目標値を上回ることができたが、デジタル画像収集については目標値を達成できなかった。 平成27年度は基礎的資料や希少資料の収集に積極的に取り組んでいく。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・収集・保存・資料の管理において、内部評価ではほぼ達成できたことであるし、保存については県内の博物館相当施設の指導的立場であることがうかがえる。ただ、新たな収集品の保管において少し手狭のように感じるが如何か。 ・收藏されているが、未登録資料があるとのこと、どのくらいの量があるのか。 ・資料登録は分野によって登録法（記録法）に違いがあると思うが、資料のデータベース化はすすんでいるのか。 ・防虫について、内実として成果があったようで良かった。また設定した目標値と実際が乖離していたものを、第2期中期運営ビジョンでは実際に合わせたものに変更されているのも、妥当である。今後は検証作業を継続されるとともに、その成果を、とりわけ県内他館の保存業務にも活かされるよう、貢献されることを希望する。 ・資料の管理について、未登録資料の登録を少しずつ進めておられることは良かった。また、第2期運営ビジョンでデジタルミュージアム登録について目標値を設定されたが、未登録資料の登録・配架を含め、このような分野こそ数値目標を設けるにふさわしいものである。計画的に進められることを望みたい。 ・資料の収集数については、デジタル画像で目標を下回っているが、数のみで評価されるものではなく、直ちに不十分とは言えない。ただし、もし不十分と判断される点があれば、具体的な改善策が求められる。 ・資料の管理については、保存スペースの不足が積年の問題となっている。昨年 の 検 討 結 果 と 今 後 の 見 通 し な ど、 進 展 に つ い て 具 体 的 に 記 述 して いた だ け たい。 	3
	図書・文献	5,000点 (年平均 1000点)	年1,000点	1,157点					
	デジタル画像	5,000点 (年平均 1000点)	年1,000点	751点					
②保存	燻蒸	年1回	年1回	1回	9月の燻蒸期間に収蔵庫の燻蒸、展示室の簡易燻蒸を行った。燻蒸では、燻蒸薬剤を投入している時間を延ばすことで、薬剤の投入量を控えつつ十分な効果を得ることができた。 また、簡易燻蒸により展示室の文化財害虫の発生を抑えることができた。 トラップ調査は、学芸課職員が毎月実施した。このトラップ調査及び館内職員全員で取組んでいるIPMウオッチングの実施により、26年度はヒラタチャタテムシ、クロゴキブリなどの文化財害虫を早期に発見し、被害発生を未然に防ぐことができた。また、ヒメマルカツオブシムシの発生源を確認し、対処することもできた。 平成27年度も、薬剤による管理とともにトラップ調査、IPMウオッチング、収蔵庫の目視・清掃を継続して行い、虫歯害の発生を抑えていく。	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の管理については、保存スペースの不足が積年の問題となっている。昨年 の 検 討 結 果 と 今 後 の 見 通 し な ど、 進 展 に つ い て 具 体 的 に 記 述 して いた だ け たい。 	3
	簡易燻蒸	年3回	年3回	1回					
	トラップ調査	年2回	年2回	12回					
③資料の管理	登録資料の検索	—	—	—	平成26年度は寄贈・採集などにより約550点、1件の資料を受け入れ、未登録資料と併せて約1千点の登録作業を行った。登録資料はおおよそ13万5千点を数えるが、収蔵資料の中にはリニューアル以前の資料を中心に未整理資料が残っている部門や、収蔵庫が手狭な状態で適正な配架に苦慮している部門もある。それらの資料については毎年登録作業や整理作業を継続的に行っている。第2期運営ビジョンでは資料の登録についての目標値も設定した。 今後は未登録資料を減らすため積極的に登録を行い、配架方法を検討し、適正な管理に努める。	3			

宮崎県総合博物館中期運営ビジョン評価表（平成26年度）

評価欄の数値は4段階評価数値

(3) 展示

項目	内容	評価指標	26年度目標値	26年度実績	内部評価		外部評価		
					評価内容及び改善策	数値	総合	評価・意見	総合
①常設展示	入館者数	80万人 (年平均16万人)	16万以上	107,468人	平成26年度は、前年度比で20%の減少となり、平成24年度とほぼ同数となった。特別展総入場者数が昨年度より約2万人強の減少となったためである。入館者数については夏開催の特別展入館者数に影響されるが、一昨年度並みの入館者数を確保できたのは、常設展示室での催しを継続的に実施していること、新たにゴールデンウィークイベントを開催したのをはじめ、ナイトミュージアムなどを充実させたこと、博物館ブログの頻繁な更新など広報に力を入れたためと思われる。しかし、目標値には及ばないので、さらに幅広い年代層を対象とした魅力的な特別展を開催するとともに、積極的な広報活動を行い、入館者増を図る必要がある。	3	3	<p>・入館者数は、博物館運営隆盛の一つの指標ではあるが、経年的な右肩上りを期待することが短絡的な発想であることは新ためて指摘するまでもない。</p> <p>入館者数は、博物館関係者の努力と一定程度の相関関係はあるものの、無限に増え続けることがないことは明らかである。</p> <p>館を訪問するごとに、宮崎県総合博物館が、困難な情勢の中で諸々の工夫を凝らして居られることを垣間見ることができる。</p> <p>博物館発展の基本的な要件は、博物館スタッフの増員と運営企画予算の充実である。この要件を十分に満たすことは容易ではないが、次に述べる努力・施策は、過大な経費を必ずしも必要とせず、博物館事業を隆盛の方向に導くものでもあることは確かである。</p> <p>(1) インターネット・新聞紙面などの社会性・有用性を分析し、これらを効果的に利用するように努力すること。</p> <p>(2) 企画力の養成を主眼として、国内に限らず、世界の博物館事業の視察・研修の機会を増やし、館員の資質の向上を図ること。</p> <p>上記(1)は入館者数の増加に直結することであり、宮崎県立総合博物館としては、より一層の工夫を加える余地があるように見える。</p> <p>また、(2)は、特別展示等の企画構想の方向性が入場者数の増減に大きく寄与することが事実として明らかにもかかわらず、企画力の養成こそが博物館の運営のための重要事項の一つであり、同時に宮崎県の文教施政の発展のためにも、館員の視察・研修の機会を増加させることが強く望まれる。</p> <p>私的見解の一端「見たこともないものについては真似もできないし、それを超えることもできない。」</p>	3
	展示替等回数	年5回	年5回	5回	常設展示室は備え付けの展示が多いため、大規模な展示替えは難しいが、平成26年度は民俗展示室において佐土原人形の展示替えを複数回行い、自然史展示室では動物部門においてアカショウビンとヤマシギの入れ替え、資料ラベルの更新を行った。	4			
②特別展示	実施回数	年4回	年4回	4回	本館が企画し実行委員会形式で開催した「ほねほね大集合！」や巡回展「第34回SSP展」、本館が企画した「どんぐりと松ぼっくり」展、本館と津波被災文化財保存修復技術構築連携プロジェクト実行委員会が企画した「文化財」を守り伝える力の合わせて4回実施した。さらに「中山みどりフェルトアート展」を貸館で実施した。近年、展示会予算が削減されてきているが、貸館等も含め検討し特別展の運営を充実させた。	4			
③ロビー展示	実施回数	年12回	年12回	17回 ※ミニコンサート1回を含む。	平成26年度は全17回実施した。特別展関連展示5件、各部門の企画展5件、他の団体が主催する展示2件に加え、昨年度からはじめたロビー企画2件（うち1件はひなまつりミニコンサート）も実施した。さらに、「教員のための博物館の日」による展示1件、解説員による展示1件、友の会による企画展示1件を行った。	4			
④屋外展示 (民家園)	管理等	-	-	-	9月の燻蒸期間以外は通年開園し、民家園ボランティアによる囲炉裏の火入れや環境整備を行った。建物の傷みがひどい3棟の民家については、保存修理のための耐震診断を行った。	3			
	入園者数	25万人 (年平均5万人)	5万人以上	44,718人	平成27年度も経費の節約を図りながら、工夫を凝らし年4回の展示会を実施する。	3			

宮崎県総合博物館中期運営ビジョン評価表（平成26年度）

評価欄の数値は4段階評価数値

(4) 教育普及

項目	内容	評価指標	26年度目標値	26年度実績	内部評価		外部評価		
					評価内容及び改善策	数値	総合	評価・意見	総合
①学校教育支援	学校受入数	—	—	124校	<p>学校受入数は前年より20校減った。来館する学校の多くは5月と10月・11月である。5月では前年度より10校減っており、10月は今年度が2校多かったものの、11月では12校減っている。</p> <p>資料の貸出については昨年度より2校減った。小学校の利用は2校あり、社会科での「伊能図」と「昔の道具」の貸出しがあった。中学校は1校減り3校で、例年化石レプリカや骨格標本、昆虫の封入標本の貸出が多くみられる。高等学校と支援学校への貸し出しはなかった。</p> <p>授業支援については高等学校2校と中学校1校はここ数年同一校で行っている。しかしその他の小・中・高等学校からの依頼はなかった。これらは、学校の授業内容が増え、授業数の確保から減っているものと思われる。それとは逆に、大学からの依頼が増え、4回対応した。</p> <p>職員研修の受入れは、教育研修センターが2回とみやざき科学推進事業へ1回の協力をおこなった。また、平成26年度は、当館を会場に「教員のための博物館の日」という研修事業を行った。</p> <p>職場体験、博物館実習は相手先の希望どおり受け入れた。来館した学校で展示解説の希望があるところには、原則として解説員が対応した。学校利用数や解説などの数の増減は、雨天時の利用等にも影響される。</p> <p>今後も、博学連携を推進するために積極的に学校教育支援に取り組んでゆく。</p>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・博学連携をより推進させていただきたいが、その為の具体的手立てが不明である。たとえば、近隣の学校だけでなく、博物館等の施設がない、あるいは遠い市町村立学校への学校訪問を行うなど攻めの姿勢が必要ではないか。 ・サテライト型の講座の実施はぜひ進めてもらいたい。 ・レファレンス対応が増加している実態から、レファレンスとPRを連動させた取組を工夫してはどうか。 ・大人も子どもも博物館に対してはワクワク・ドキドキ感をもつので、PRの工夫と博物館側が県民に歩み寄る手立てを打つ方向で進めてもらいたい。 ・毎年4年生が宮崎市科学技術館と県総合博物館の2館を遠足で訪問しており、大変有意義である。6年生は埋文授業を今年も行った。市の文化財課主管で、よろい・かぶとで弓を引かせてもらい児童はたいへん興味深く取り組んだ。また、特別展の見学にも、多くではないが保護者と出向いている。 児童の興味・関心を計画的に高めていきたいと考えるし、学年に応じた支援方法も提案していただけたらありがたい。 	3
	受入時の関連資料作成	—	—	—					
	資料貸し出し	—	—	5校					
	授業支援	—	—	7校					
	職場体験受け入れ	—	—	3校					
	職員研修受け入れ	—	—	4回					
	解説	—	—	90校					
	博物館実習受け入れ	—	—	9名					
②展示解説	—	—	—	<p>展示解説員の解説は、平成25年度比、回数で14件、人数で約350人減少した。幼稚園・保育園、小中学校団体の微減によるところが大きい。来館団体をみると福祉団体が約40団体増加しているの、博福連携を図りながら、解説の機会を増やしていきたい。</p> <p>今後も積極的な声かけや展示解説員活動の周知広報活動に力を入れるとともに解説の内容も量的だけでなく質的にも大きく改善できるよう工夫していく。なお、特別展においては担当学芸課職員が積極的に展示解説を行った。</p>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校受入数は減ってきているが、展示物の工夫（ガラス張りや映像など）や解説員の説明の工夫がよくなされていて、小学校低学年も抱きこくことなく見学できた。遠方（県北、県西、県南）からの学校受入数をもっと増やすためにも「社会・理科」などの教科書内容と照らし合わせた展示内容を工夫してはどうか。ちなみに、解説員の説明は学年、学校に沿って丁寧でわかりやすいものだった。 ・展示解説についてはここ3年間、件数・人数ともに減少傾向にある中、福祉団体の利用が増加傾向にあることから、広報活動等を含めてさらなる博福連携の推進に期待したい。 		
③博物館講座	主催講座	年20回	年20回	23回	<p>平成26年度計画していた博物館講座26のうち、野外講座の3つ（本城干潟の生きものを観察しよう、化石採集会、猪崎鼻の地質観察会）が天候不良のため中止となった。講座参加者総数は目標の倍近くにあたる1,816名の参加があった。</p> <p>その他、上記講座以外に民家園関連講座を2講座（参加者：54名）と、特別展開関連講座を9講座（参加者：301名）を開催した。</p> <p>また、夏休み期間に開催した「教員のための博物館の日」に93名の参加があり、総合計では2,264名の参加となった。</p> <p>平成27年度は博物館講座を28講座計画している。野外講座は、博物館から遠方にお住まいの方にできるだけ多く参加していただくために、県内各地で開催していく。</p>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館講座については、天候不良で野外3講座が中止となったが、講座参加者総数が増加していることは大いに評価される。野外講座は天候に左右され、実施する側は準備等が大変であると思うが、今後とも県内各地で開催を推進してもらいたい。 ・活用できる民家園は1棟のみであるが、貸出も含めて様々な活用工夫を図っていることが何え評価できる。 	
	受講者数	年1,000名	年1,000名	1,816名					

宮崎県総合博物館中期運営ビジョン評価表（平成26年度）

評価欄の数値は4段階評価数値

④民家園の活用	民家園まつり	年2回	年2回	1回	平成26年度から「民家園を使用した故郷の民俗体験事業」を実施している。伝統芸能（神楽）の公演、正月準備体験、正月飾り製作体験、民家園春まつりを実施した。宮崎の昔話公演は、12月と1月を除く計10回の公演を行った。また、昨年好評であったレコードコンサートをレコード愛好会と行った。テレビ放送での収録や建築士の研修での民家園の貸出も行った。 民家の屋根の破損等で「椎葉の民家」1棟のみで活用事業を行っている。 平成27年度より民家の保存修理が始まるため、工事の進捗状況をみながら、活用事業を展開していく。また茅葺き屋根の葺き替え工事の見学会なども実施し、県民の関心を高めるように努める。	3		
	伝統芸能公演	年1回	年1回	1回				
	宮崎の昔話公演	年10回	年10回	10回				
	その他の催事	年6回	年6回	12回(貸出を含む)				
⑤自治体等支援	共催講座	共催講座の開催回数、講師派遣回数、資料貸出し回数の合計が年20回	年20回	1回	市町村との共催講座は、日南市教育委員会2回、串間市教育委員会1回とで計画をしたが、「本城干潟の生きものを観察しよう」、「猪崎鼻の地質観察会」は雨天のため中止となり1回のみの実施となった。27年度は市町村等との共催講座を増やし、積極的なアウトリーチ活動につなげたい。 市町村への講師派遣は、依頼があれば可能な限り実施することとし、日之影町歴史民俗資料室の改修に関する検討会に考古と民俗の担当を派遣するなど積極的に行った。 市町村の資料館等への資料貸出しは前年度と件数は同じであったが、点数が増加した。 今後とも、博物館等協議会等を通して支援策のPRを行い、自治体等支援実績が増大するよう努める。	3		
	講師派遣			10回 7人				
	資料貸し出し			7回 30点				
⑥レファレンス対応	相談件数	年1,000件	年1,000件	1,012件	問合せの件数が1,000件を超え、目標値を達成した。問合せ者は一般が最も多く58%、マスコミが16.8%で大半を占める傾向は例年通りであった。夏に動物部門の特別展「ほねほね展」を開催したこともあり、動物部門の問合せが4割を占めた。 今後も全分野でしっかりと対応し、情報提供を行ってい	4		
⑦研究発表会の開催	研究報告会	年1回	年1回	1回	本館学芸員の資質向上を図る目的で例年実施している事業である。平成25年度は他館職員について参加をお願いしたが、平成26年度は、実施時期の関係により他館の参加が難しく、本館職員のみが調査研究の進捗状況や成果について報告し、34名の参加を得た。 なお、別途本館主催による6回目の宮崎の自然合同研究発表会を開催し、発表を行う7団体を中心に53名の参加者があった。 今後も、自然や歴史に関する中核施設として調査・研究を行い、その成果を発表会で報告する。	3		
⑧博物館友の会の充実	-	-	-	-	平成26年度は、特別展の学習会4回と自然観察会1回、宮崎植物研究会と合同で1泊2日の観察旅行を行われたが、準備段階での役員会などに博物館職員が参加し、計画の作成について指導・助言を行った。また、会員の方によろいかぶと着用体験に参加いただき博物館職員と合同で実施した。 今後も、引き続き友の会の活動が充実するよう支援していく。	3		

宮崎県総合博物館中期運営ビジョン評価表（平成26年度）

評価欄の数値は4段階評価数値

(5) 情報発信

項目	内容	評価指標	26年度目標値	26年度実績	内部評価		外部評価		
					評価内容及び改善策	数値	総合	評価・意見	総合
①情報発信の充実	広報紙発行	年2回	年2回	2回	本館の広報誌である「森の通信」を2回発行し、ホームページにも掲載した。また、解説員による「わくわく通信」も2回発行した。 広報誌などの県広報関係は22件、その他全国の機関誌やテレビ・ラジオ等の情報発信では、21件であった。講座や展覧会、コラムなど新聞等による掲載数はおよそ184件であった。その内訳では講座によるものが26件、展覧会に関するものが88件、その他コラムなどが70件であった。タウン誌・各種機関誌等への投稿に加えてWebメディアを活用した展示会イベント等の配信も行っている。 平成27年度も引き続き効果的な情報発信に努める。	4	4	・広報誌「森の通信」の発行やホームページの充実、各種機関誌等への投稿など、いろいろな手立てを講じて情報を発信していることが分かる。 チラシ等（イベント紹介…）も思わず手に取ってみたいと思わせるような、鮮やかな彩りと写真を活用した紹介に努めており、評価に値する。 ・ホームページの更新が目標を大きく上回り、74回の実績は大いに評価する。 ・（再掲）インターネット・新聞紙面などの社会性・有用性を分析し、これらを効果的に利用するように努力すること。	3
	報道処理・情報提供件数	年50件	年120件	227件					
②ホームページの充実	更新回数	月1回	月1回	年74回	ホームページの更新回数は74回（6.1回/月）であった。年度替りの際は、内容を大幅に更新している。更新回数が多いのは、特別展覧会や特別展のイベント、博物館講座、民家園での行事などの情報を、その都度アップしているためである。 ホームページ（トップページ）へのアクセス数は、59,221件であった。25年度から始めた職員ブログについては、26年度は112件の記事をアップした。 平成27年度も、引き続き魅力あるホームページづくりに努める。	4			

(6) 経営

項目	内容	評価指標	26年度目標値	26年度実績	内部評価		外部評価		
					評価内容及び改善策	数値	総合	評価・意見	総合
①博物館協議会や県民の意見の反映	アンケート収集件数	年2,000件	年2,000件	1,723件	任意で記入するアンケート調査の回収率と利用価値を向上させる目的で、昨年度アンケート内容の見直しを行った。アンケートの回収は目標値を下回る1,723件であった。 個人アンケートにおいて本館のサービスに関して「満足した」と回答した方は80%であった。自由記述において施設利用に関する要望について対応できるものは迅速に対応した。また、アンケートだけでなく、生の意見を聞くために、大宮小学校で意見交換会も行った。 今後とも、館内外からの意見を真摯に受け止め、館の運営に生かしていく。	3	3	・民俗展示の回想法への活用など、高齢者福祉施設等との連携による新たな利用促進に取り組んでいることは評価できる。 ・経費削減の情勢の中で、老朽化した施設の維持だけでも大変な経営努力であろうと推察する。こうした厳しい状況を踏まえて職員の努力に敬意を表する。必死に頑張っている姿を認識してもらうためにも、一層工夫を凝らして来館者を増やす努力が必要である。 ミニイベントの開催や3館合同の見学ツアーなどに加えて、神宮の森から飛び出していく催しを企画していただきたい。 ・（再掲）企画力の養成を主眼として、国内に限らず、世界の博物館事業の視察・研修の機会を増やし、館員の資質の向上を図ること。	3
	満足度	70%	70%	80%					
	意見交換会	年1回	年1回	1回					
②職員の資質の向上	—	—	—	基本研修3回 県外研修5名	基本研修として全職員を対象に年3回、コンプライアンス、危機管理、資料保存、人権研修、交通安全、環境、情報セキュリティ等研修を実施した。 県外研修として、ミュージアムIPM研修や、指定文化財企画・展示セミナー等に参加した。また、津波被災文化財再生のためのワークショップや調査・セミナー等に参加した。さらに、展示解説員に対する館内・館外研修も実施した。 平成27年度も館内外において研修の機会を確保し、全職員の資質向上、特に、専門分野についての資質向上を図っていく。	3			

宮崎県総合博物館中期運営ビジョン評価表（平成26年度）

評価欄の数値は4段階評価数値

③危機管理体制の強化	防災訓練	年1回	年1回	2回	<p>防災研修として、年度当初全職員を対象に、危機管理マニュアルに基づく様々な危機事象に応じた対処方法や、火災に備えて消防設備の確認、消火器を使用した消火活動の実地研修を実施した。さらに、6月には宮崎市北消防署の協力のもと、AEDを使用した救急救命研修を実施した。</p> <p>防災訓練として、9月に震度5強の地震を想定した避難訓練を実施した。実施後、北消防署員による負傷者の搬送方法についての訓練も実施された。さらに、1月には文化財防火デーに合わせて民家園東の神宮の森から火災が発生したとの想定のもと、宮崎市北消防署と合同で民家園への延焼を防ぐための消火栓等を使用した訓練を実施した。なお、訓練には民家園のボランティアや神宮の職員等の協力もあり関係者が一体となった訓練が実施できた。</p> <p>以上の研修や訓練を通じて職員の防災に対する意識の高揚や消火機器の操作能力の向上を図った。</p> <p>平成27年度も、防災訓練の反省点を踏まえた訓練・研修を実施し、非常時に職員が適切な対応を迅速に取れるよう、危機管理意識と機器操作等の対応能力を高めていく。</p>	4		
	防災研修	年1回	年1回	2回				
④施設の管理	—	—	—	施設・設備改修	<p>施設・設備の老朽化が激しく、応急的な改修は行えたが、抜本的な改善までには至らなかった。</p> <p>また、利用者の安全を優先した施設の維持管理に努めたが、故障箇所への修繕対応にとどまった。ただし、館内の環境整備でトイレの和式便座を洋式便座（ウォシュレット）への改修工事を行った。大規模な改修・補修等については、関係機関と連絡を取り、継続した要望を行っていく。</p>	3		
⑤経営の効率化	—	—	—	—	<p>県の厳しい財政状況に伴い、各業務等の見直し等により節約している。</p> <p>ミニイベントの開催や美術館・図書館と共同での3館見学ツアーなど、予算を最小限に抑えた催事を実施し、県民及び来館者に利用しやすい博物館であるようサービスの向上を図っている。また広報面において、低予算で県民、利用者にタイムリーな情報を提供するため、細かなホームページの更新や職員ブログの掲載に加え、みやざき観光ナビへの情報提供を行い、情報の周知に努めた。</p> <p>今後も運営予算はますます厳しくなると予想されるが、施設全体の老朽化が著しく、また耐用年数を大きく超えた機器設備も多く抱えていることから、緊急な対応が必要となる場合も多い。今後とも、予算執行の優先順位や必要経費の把握に努めながら、効果的・効率的な予算執行に努めていく。</p>	3		
⑥利用促進	—	—	—	—	<p>平成26年度の入館者数は10万7千人にとどまったが、今後とも魅力ある特別展の開催や、学校教育への支援、展示解説の充実など総合的に推進し、利用促進に努めたい。また、教育機関や福祉施設と連携を図りながら回想法等の新たな博物館の活用についても取り組んでいく。</p>	3		

宮崎県総合博物館中期運営ビジョン評価表（平成26年度）

評価欄の数値は4段階評価数値

(7) その他

項目	内容	評価指標	26年度目標値	26年度実績	内部評価		外部評価		
					評価内容及び改善策	数値	総合	評価・意見	総合
①事業評価について	—	—	—	—	平成26年度は中期運営ビジョンの最終年度に当たるため、10月の博物館協議会に案を提示し意見をいただき、平成27年3月に第2期中期運営ビジョン策定した。平成27年度より新たなビジョンの目標値に向けて取り組んでいく。	3	3	<p>・外部評価の文書とともに年報を、また事前に紀要を送付されていることは良かった。</p> <p>・平成26年度までの5年間は初めての事業評価で、慣れない中に多くの試行錯誤があったことと拝察している。第2期中期運営ビジョン策定にはいくつかの変更がなされ、妥当な点も多いが、いっぽうでやはり数値目標に目が向きすぎるくらいを感じる。数値を掲げることがふさわしい事業と、そぐわない事業とがあることに、十分配慮されることを希望する。</p> <p>また県立の総合博物館として、たとえば市町村立の館等に果たしにくい役割を果たすことも大きな役目だと思う。</p> <p>このような評価活動が本務の妨げにならないよう、博物館職員の方々にとって実際に活動の改善につながる、適正な規模の評価活動を進められることを願う。</p>	3